

用水路の工事と開田(かいでん)

西天竜用水路が造られる前は、主に農家は養蚕を中心とした生活でしたが、「**自分たちが食べる米は自分たちで作りたい。**」という強い願いを持っていました。しかし、井戸を掘っても飲み水程度しか出ず、天竜川は低地を流れているため、水が引けずに長い間水不足でした。

大正8年から昭和14年にかけて、岡谷市川岸～伊那市小沢までの約25kmの用水路工事と開田工事が行われました。



西天竜用水路記念撮影(大正時代)



開田前の状況



開田床練状況



昭和25年 記念碑建立



耕土盛り立て状況



開田床練状況

用水路工事と一緒に開田が行われましたが、立木の伐採、つるはしやとんがで行う伐根、もっこで土を運んで馬で土を締める工事はほとんど人力で行われました。そのため、水田は水持ちが悪く、水争いが起こりました。

水の番人以外の方が勝手に水を調整すると罰が科せられ、水が止められてしまうこともありました。円筒分水槽が作られたことで、水田の面積に応じた穴の数により公平な水の分配ができるようになりました。